

単子葉植物ユリ科

ヒメユリ



根市益三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

草地に生える多年草。茎は高さ30～80cm。葉は線形。7月に小形で朱赤色の花を上向きに咲かせます。

本州・四国・九州に分布しますが、各地とも限られた地域にだけ産します。県内では名川町と五戸町間の丘陵地に見られましたが、自生地の牧野や採草場が時代の推移により放置・植林されるにつれて、本種も次第に減少してきました。かつては森林の伐採後の火入れによって造成された草地に本種が出現した例もありますが。

根市

単子葉植物ユリ科

シラオイエンレイソウ



根市益三撮影

青森県：D

環境庁：絶滅危惧ⅠA類

ミヤマエンレイソウとオオバナエンレイソウの雑種です。両親とも白い花を咲かせる種類ですが前者は内花被の先端がとがり、後者は円くなっています。また、雄しべと雌しべの様子も異なっています。

一見したところ、オオバナエンレイソウに似ていますが雄しべも雌しべも両親の中間をしています。

三沢市と七戸町での発見記録があるのみで、詳しい分布状況は不明です。生育地の保全と今後の調査が望まれます。

木村

単子葉植物ミズアオイ科

ミズアオイ

青森県：C

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

木村

草丈30~50cmほどの一年草で、水田や沼地などに生育しています。葉は心臓形で光沢があり、花は青紫色です。

北海道から九州まで分布しています。県内では全域に見られ、株数も多く、大きい群落も認められます。しかし、以前に比べていくらか減少傾向ではあります。

生育場所である沼や水田などの環境保全が望まれます。

よく似た種類に同属のコナギがあり、同じ環境の場所に生育しています。

単子葉植物アヤメ科

カキツバタ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

齋藤

全国の水湿地に群生する大型の多年草です。

同属のノハナショウブに比べ、水との結びつきは強く、1年をとおり根茎が水につかっているような場所に生育しますが、そのような水湿地は激減しています。本県では津軽地方、南部地方ともに分布しており、初夏に花を咲かせます。アヤメやノハナショウブと同じで、外見上は花びらが6枚あるように見えますが、外側の目立つ大きな3枚は萼片、内側の3枚が本来の花びらです。

単子葉植物イグサ科

セキショウイ



根市益三撮影

根市

青森県：C

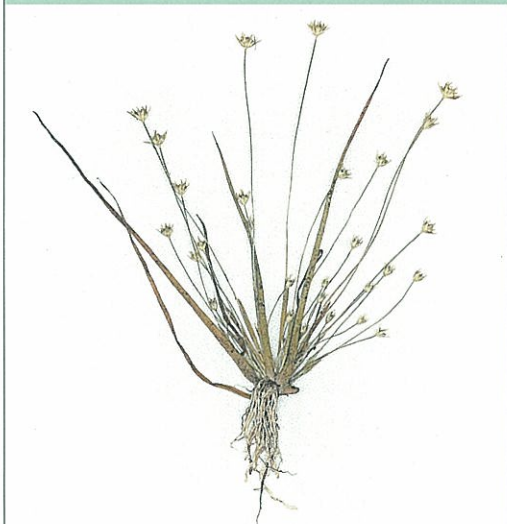
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

海岸近くの湿地に生える多年草。茎は高さ15～30cm。田んぼや湿地に多いコウガイゼキショウの仲間ですが、葉は扁平でむしろイネ科植物のような感じです。

北海道・本州（青森・岩手）に分布する北の方の植物です。県内では下北の太平洋側・むつ湾東岸などに産し、高瀬川河口部に小群が見られます。六ヶ所・東通原子力関連の湿原開発で消滅したところもあり、植生の遷移による減少も進んでいます。

単子葉植物ホシクサ科

エゾホシクサ



細井幸兵衛所蔵

原子

青森県：D

環境庁：情報不足

ホシクサの仲間は、自然度が高い湿地を好み、ヒロハイヌノヒゲ以外は水田には生えません。

この仲間は、県内で9種確認されていますが、どれも花が非常に小さく、肉眼で詳しく見ることはできません。

尻屋崎・小田野沢・市柳沼・^{びょうろ}屏風山湿地・八甲田田代などで見つかっていて、県内では割合見られますが、北海道を除く地域ではまれに産します。

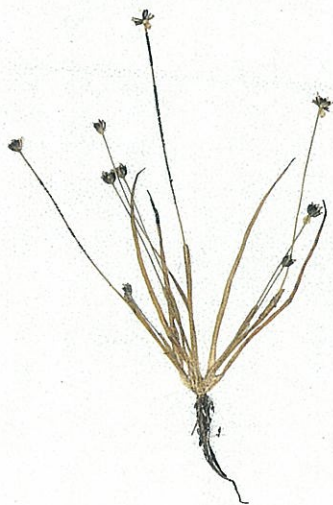
子房3室のニッポンイヌノヒゲに似ていますが、本種は子房1室で種子が1個です。

単子葉植物ホシクサ科

カラフトホシクサ

青森県：A

環境庁：情報不足



細井幸兵衛所蔵

細井

本種は黒花種でクロイヌノヒゲやミヤマヒナホシクサと間違えられたりしましたが、花弁は2個、子房は2室と2数性であるのが特徴で区別できます。エゾホシクサのところで述べたように、ホシクサの仲間の花は非常に小さいので花を調べる時は、低倍率の顕微鏡を使います。

樺太、北海道と本州では八甲田山のみ記録され、八甲田山では高層湿原の裸地状の所にやや広く分布しています。

単子葉植物イネ科

タチイチゴツナギ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



細井幸兵衛所蔵

細井

イチゴツナギの仲間は県内で15種確認されていますが、高さが30cm以下で、最上葉の葉身が葉鞘よりもはるかに長いのは本種だけです。本種は、県内では十和田湖畔と南八甲田で確認されていますが、詳しい分布状況についてはまだ分かっていません。

十和田湖畔では岩上、南八甲田では乾いた石礫地の路傍で確認されていて、前者の個体数は20~30株、後者はそれよりずっと少なかったようです。

栽培してみると種子で殖えます。

単子葉植物サトイモ科

ヒメカイウ

青森県：B

環境庁：該当なし



細井幸兵衛撮影

齋藤

本州中部から北海道にかけての低地から山地の水湿地に生育する多年草で、7～8月に花を咲かせます。本県では津軽半島、下北半島などの少数の池沼の縁や用水路で確認されていますが、最近はその場所も耕作地などに変えられているため、生育地がとてま少なくなってきました。本種が所属するサトイモ科は、花序の下に仏炎ほうと呼ばれる花びらのような器官が存在します。私たちは仏炎ほうを花びらと見間違っているのです。

単子葉植物ウキクサ科

ヒンジモ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠA類



向山満撮影

細井

水中だけに生息し、枝が伸びて植物体が連結して広がっていく種類はほかにありません。

県レッドデータブックでは絶滅種として解説しますが、1999年10月に小川原湖畔の人工池で発見されました。

2000年8月には激減していて、少量だけが生育していました。保存対策をとることが検討されています。

県内では過去に十和田市と六ヶ所村市柳沼の記録があっただけです。

単子葉植物ミクリ科

ミクリ

青森県：C

環境庁：準絶滅危惧



木村啓撮影

木村

草丈80cmほどの多年草で、花穂が分枝しています。花後に、トゲ状の球形果実をつけます。

北海道から九州まで広く分布しています。県内で全域にわたって普通に見られていましたが、近年、急激に減少しています。

県内には同属のエゾミクリ、タマミクリ、ホソバタマミクリ、ナガエミクリ、ヒメミクリなどが知られていますが、どれも激減傾向です。

生育地となっている水辺や溝などの豊かな自然環境づくりが望まれます。

単子葉植物ミクリ科

タマミクリ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類



根市益三撮影

齋藤

主として中部地方以北の、湖沼、河川、水路、池塘などの水辺に生える多年草で、花期は7～8月です。本県では津軽半島、下北半島、八甲田山などからの報告がありますが、水質汚濁、開発のため生育場所が急激に減少しています。花茎の先に小さな球状の頭状花序をつけます。先端の1～2個が雄性頭花で、その下の数個が雌性頭花になります。同属の他種に比べ雄性頭花が少ないことが特徴といわれます。

単子葉植物カヤツリグサ科

ジョウロウスゲ



根市益三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

湿地に生える多年草。^{そうせい}叢生し、高さ40cm～70cm。葉は硬く幅4～8mm。小穂は長さ1.5～3cm、幅15～18mm。果胞の先が2裂して反り返る特異な形で他のスゲ類と見分けられます。

北海道と本州中部以北に分布し、県内に点在します。六ヶ所村湖沼群や小川原湖周辺に産地が割合集まっています。湿地に土砂が新しく堆積した付近や休耕田などにいち早く出現し、また数年後に姿を消したりする先駆的植物です。最近湿原開発などで減少しています。

根市

単子葉植物カヤツリグサ科

クイロスゲ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠA類



根市益三撮影

湿地に生える多年草。普通に見られるミノボロスゲ・オオカワズスゲに似ていますが、^{かほう}果胞はより小さく、長さ3mmで、熟すと濃い栗褐色で光沢があります。

北海道・本州（北・中部）に分布する産地の限られた植物です。県内では東通村荒沼に産します。八戸市北沼にもありましたが工業用地造成のため1965年頃消滅しました。荒沼は周辺の森林伐採・牧草地化などにより土砂の流入・水質悪化がすすんできているので本種の生育が心配されます。

根市

単子葉植物カヤツリグサ科

ネムロスゲ

青森県：C

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

海岸の岩上や草地の、時々波しづきをかぶるような所に生える多年草で、小穂が茎の上方に集まり頭を垂れます。

北海道・本州北部に分布する北の方の植物です。

県内では夏泊半島と八戸市の海岸に産します。最近多くなった漂着ゴミの堆積による影響が出ています。釣りや行楽の人たちに踏み付けられていることもあるので、貴重な植物であることを知ってもらわなければなりません。

根 市

単子葉植物カヤツリグサ科

ホロムイクグ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

湿地に生える多年草。葉の断面がやや3角形で幅2mm内外。果胞は大きく長さ5～6mmで硬くて光沢があります。

北海道・本州（青森・岩手・長野）に分布する北の方の植物です。県内では東通村加藤沢沼・鷹架沼に産します。八戸市北沼・三沢市仏沼・姉沼では開発により消滅しました。加藤沢沼は水質悪化が心配され、鷹架沼はかつての開田を免れた湿原に群生も見られますが、むつ小川原開発地域内にあります。

根 市

単子葉植物カヤツリグサ科

クグスゲ



根市益三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠA類

湿地に生える多年草。^{そうせい}叢生し、高さ40cm～70cm。小穂がジョウロウスゲに似ていますが細長く、長さ2～5cm、幅6～8mmです。果胞の先は2深裂してまっすぐとがります。

北海道・本州（青森・長野）に分布し、県内では東通村荒沼に産します。八戸市北沼にも見られましたが工業用地造成のため消滅しました。産地が限られ個体数の少ない植物です。荒沼はクリイロスゲのところで述べたように土砂の流入・水質悪化が心配されています。

根市

単子葉植物カヤツリグサ科

オオクグ



根市益三撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

海岸の湿地に生える多年草。太い地下茎があり、シオクグやコウボウシバに似ていますが、全体に大きく、高さ40～70cmになります。葉は幅4～8mm。小穂は長さ3～6cmです。

全国的に分布しますが、産地は少なく、県内では大間町、六ヶ所村、八戸市などに産します。高瀬川河口ではヤラメスゲなどと共に群生するものも見られますが、護岸工事で一部消滅した所もあります。最近多くなった漂着ゴミの堆積による影響も出ています。

根市

単子葉植物カヤツリグサ科

ヒメウシオスゲ



根市益三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠA類

塩湿地に生える多年草。葉が茎より高くなるので小穂がかくれて見えにくくなります。

北海道と本州では青森県だけに産する南限の植物です。太平洋側の高瀬川河口部にヒメキンポウゲ、エゾツルキンバイ、ウミミドリ、オオシバナなどと一緒に生えています。これまでの観察から、車の乗入れ、踏み付け、ゴミの堆積がなければ生存も難しくないと考えます。目立たないが貴重な植物であることを知ってもらわなければなりません。

根 市

単子葉植物カヤツリグサ科

エゾサワスゲ



根市益三撮影

青森県：C

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

湿地に生える多年草。密に叢生し、高さ10cm～30cm。葉は幅1.5～2.5mm。小形ですが全体硬直な感じのスゲです。最下の小穂の苞は葉状で横に長く伸びる特徴があります。

北海道と本州・北中部に分布する北の方の植物です。県内では下北から三沢市までの海岸および内陸部の日当たりで水位のあまり高くない所や砂質の湿地に生え、割合見かける種類ですが少数ずつしか生えていません。湿原開発や植生遷移によって減少しています。

根 市